

然ルニ皆ナク之ヲ求メザリレナリ、

換事ハ此ノハ公益ニ係ルコトナルニハ之ヲ求ム
ヘキナレド之ヲ求メザリレナリ

裁判官モ訴訟人ノ求メヲ受ケスレテ言渡スコト
ヲ得ルニ之ヲ言渡サハリレナリ

然ルニソノ裁判ハ済ミタリ

依テ控訴ヲ為シタリトモ同レテ齟齬セシナリ
ソノトキハ「レケート」ニ求メサルハカラ
ス

然ルニソノ執行ハ為スコト能ハス何トナレバ一

司法省

ソノ裁判所ニテハ物件取戻シヲ言渡サレ
ソノ裁判所ニテハ道理ノ立タサル旨ヲ言渡
サレタルニハナリ

ク、ニ一ツノ難事アリ我レモ之ヲ解クコトヲ得
ス

ニツノ裁判ノ齟齬セレトキ既ニ「レケート」ニヒ
ルノニケ月ノ期限ヲ過シタリ

如シ我レ立法官ナラバニケ月ノ期限ヲ立テサ
ルナリ何トナレバ之ハ公益ニ係ルコトナリ然
ラハ何時ニテモ之ヲ求ムルコトヲ得ヘキマ

ワニ五ツハモナリ

然ルニソノニケ月ヲ過キタルトモハ如何スヘ
キト解クイハ法律中ニハ書イテナキナリ

併シ之ヲ解カサルヲ得サルナリ

大審院へ訴フルモニケ月限リナリ

訴フルイラ得ス

此齟齬セシ裁判ハ確定ニテ動かスヘカラサル
モノトス

依テ案スルニニツトモニ立テサルヘカラス
ソノ半バツ、ヲ存スヘキナリ

司法省

原告人ハ不動産ヲ取戻スノ権アリ被告人ハ道
理ナリト言渡サレタルニハ即チ何レモ所有
ノ権ヲ有スルナリ

タトハハ人権ヲ以テ訴ヲ為ストモ一萬圓ノ訴
訟ニ付キ一方ノ裁判所ニテハ原告人ハ勝チ
他ノ一方ノ裁判所ニテハ被告人ハ勝チタリ
ソノトモハ五千圓ツ、ヲ取ルヘシトス

甲ノ裁判所ニテ全額ヲ負ケシノ裁判所ニテハ
全額ヲ勝チタリ之レヲ平均スルトモハ一半
ツ、ヲ取ルヘキナリ

ソノ執行ニ於テハ之レヲ変スルコトヲ得ヌトモ
凡ソノ執行ニ付テ紛争ヲ生シタルトモハ紛
争ヲ為シタル裁判所ニテソノ執行ノ方法ヲ
言渡サルハナリ

此ノ如ク甲乙ノ違ヒタル裁判所ナルトモハ大
審院ニ訴フルナリ

又曰一ノ裁判所ナルトモハレグーレヒルハ
訴フルナリ

第五百四條ヲ参照スヘシ

タトハ東京ノ裁判所ト長崎ノ裁判所ハ曰レ

司法省

一ヲ訴ハタルニ付モ異ナル裁判言渡トナリ

タルトモハ大審院ニ訴フルコトヲ得ルナリ

併シニケ月ヲ過ヌタルトモハ本條ト曰レ

又曰一ノ裁判所ニテ言渡ヲ受ケタルトモハレ

グーレヒルニ訴フルナリ但レニケ月ヲ過

クルハ訴フルコトヲ得ヌ

何レニレテモ急タリタルトモハ前ニ云フ如ク

面道トナルナリ

此ニケ月ハ最終ノ言渡ノ送達ヲ受ケタルヨリ

起算スルナリ仍テ實際ニハ絶テナレトモ

無キト云フハカラス平生量スハキナリ
双方互ニ勝負アリ之レヲ平均スルヨリ外ハ
ナシ

不動産ナレバ猶更相違ナレ一方ハ甲一方ハ乙
ノ所有ナルヘレ仍テ追テ之ヲ賣却レテソノ
金ヲ分フヘキナリ

金ナリトモ同レ之ヲ中分スヘキナリ
如シ日本ニ於テ此ノ如キ場合ノ所分アルニ於
テハ他國ニキヌイヲ現ニ考ヘタルナルヘレ

第七

司法省

同一ノ裁判言渡ニ於テ裁判言渡書ノ道理ノニ
ク通りニシテ言渡サレタルトキノイナリ

タトハソノ裁判言渡ノ道理ヲ立テ、之ハ天
災ニテ滅尽レタルニ付キ此契約ハ執行スヘ
カラスト云ヒソノ未文ニ至リテ此價金額何
許ヲ拂フヘシト書キタルトキノイナリ

ソノトキハニク月限ニコレケートレヒルニ訴フ
ヘシ

如シソノニク月ヲ過キタルトキハ即チ兩道ヲ
生ス

ソノニケ月ヲ過クレハ償金ヲ掛ハサルハカラ
ス之ヲ拂ハ前文ノ契約ヲ執行スルカ
ラスノ道理ハ消滅スヘキナリ
何レニテモニケ月ノ期限ヲ立フルハヨカシカ
ラス
案スルニ即チソノ償金ヲ平均スヘキナリ
元来之レハ裁判官ノ恣意ナリ
然ルヲソノ損害ヲ裁判官ニ責ムルトモハ裁判
官ハソノ勝チタルモノニ對シ 法ノ便利ナル
裁判ヲ為シタリ

司法省

依ラソノ償金ヲ我レニ出スヘシ
之ヲ以テ負タルモノハ償フヘシト云フヘキナ
リ
之レモ實際ニハナキナリ
第五 第六 第七ハ甚タ稀レナルナリ
第八
之モ同レク稀ナルナリ既ニ講レタル第八十
三條以下ノ檢事ニテ報知ヲ受クヘキナリ
受ケナレテ報知セサルトモノナリ
檢事ニテ之レヲ聞カサルヲ得スト思フヘキナリ

求メテ聞ク又求メストモ裁判官ニテ報知ス
ヘキトナレバ報知スルナリ

此場合ニ於テハ上告モ「ロケート」トモ坊ケナ
レ巴里ニテハ必ラス上告スルナリ

之ハ訴訟ノ手ツ、モヲ欠クタルモノナリ
ホルト「マルセル」等ニテハ巴里ニテハ遠ク
ヘ大抵取消ヲ求ムルナリ

第九

此債ハ不幸ナルカナ頻リニ起ルナリ併シ
事柄ニ係ルナラハ上告ヲ許サ、ルナリ

司法省

此項ハ別ニ講スヘキナリ

第四百八十八條ニ付テハ何ノ時ヨリ
ニケ月ヲ起算スヘキモヲ説イテアルナリ

第十

之レハ債ニハアラス一旦金ヲ拂ヒタリトモ
ソノ証書ヲ返一サス又ハソノ受取書ヲ隠シ
タルトモノナリ

自己ノ無念ニテソノ証書ヲ紛失セシトモハ止
ムトヲ得ス

此項ノ主意ハソノ証書ヲ偽告人ニ押ハラシ

タルトキノイイリ

一旦裁判言渡ノ上ニソノ証拠アリトテ提出
ス毎ニソノ裁判ヲ為シ直ストキハ際限ア
ルヘカラス但シソノ相手方ニテソノ
証拠ヲ取押ヘタルトキハソレケートレヒル
ニ訴フルナリ

タトハ甲ニテ乙一金ヲ借シ之ヲ返
シタリ仍テソノ受取証書ヲ送リタリ
然ルニソノ受取ラ書籍ニ換ミタリソノ
書籍ヲ甲ニテ借覽シタリ然ルニ甲ニテハ

司法省

乙ノ死後ニ再ヒ之レヲ訴ヘタリ

ソノ後ソノ書籍ヲ返シタリ然ルニソノ書籍ノ
中ヨリ受取書ハ出テタリ仍テソノ子ニテ之
レヲ以テソレケートレヒルニ訴ヘタリ

弟ハソノ付テ少しク言ヒ残シタリ

換事一通スヘキナリ然ルニ保護ヲ受クヘ
ス通スヘキナリ然ルニ保護ヲ受クヘ
キ知者等ニテ勝チタルトキハ通知セスト
モソレケートレヒルニ為ラヌソノ負ケタルト
キノナリ

タトハ政府トノ訴訟ニ付テハ通知スルニ及
リ然ハニ政府ニテ勝チタルトモハ通知セ
ストモソノ名代人ハコケートレヒルニ許ス
ニ及ハス

第四百八十一條 官府邑公舎知者ハ之ニ代テ
訴ヲ為ス者ノアヲサリシ時又ハ其代人アリ
シト虽凡法ニ適シテ其訴ヲ為サリシ時ハ
其言渡ヲ受ケタル裁判ノ取消ヲ許フルヲ
得可シ

司法省

ナリ

此官府邑公舎知者ハ皆テ名代人アリテ訴訟
ヲナスナリ

官府ニハ吏レモ其ノ名代人アリテ邑ハ邑長ナ
リ公舎ニモ名代人アリ知者ハソノ後見人ニ
テ名代人トナルナリ

ソノ裁判ヲ言渡サレタルトモ上告控訴ノ道ナク
トモハコレケートレヒルヲ為スコト得ル

之ハソノ名代人ニテソノ務ヲ盡ヤスト見做ス
ユハナリ

以上ノ十一ハロケートレヒルヲ為スコトヲ得ルナ
リ
十一ハ恩敷ナリ一ツヲ是レテ十二トナスヘキナリ
元ヨリ法律ニ於テ之レ等ノコトヲ矯フコトナキ
筈ナレバ日本ニテ立テ、十ト為ストモハ
第三ト第四トヲ一ツニ為スヘキナリ

第四百八十二條 裁判言渡書中ノ一箇條ノミ
ニ付モ取消ヲ訴フルコトヲ得可モハ其箇條ノ
ミヲ取消ト為スコトヲ得可レ但モ他ノ箇條其
一箇條ニ属シタル事ナル時ハ格別ナリト

司法省

ス
裁判言渡ノトモニ求メサルコトヲ言渡サレタル
トモハソノ求メサルコトノミヲ取消スナリ
自己ノ求メサルコトヲ言渡サレタルトモ之ヲ取
消スニソノ主タル訴訟ヲ取消シタルトモハソノ
訴訟ニ附屬シタルコトヲモ取消スヘキ
ナリ

トモハ主タル訴訟ハ契約ノ解除ナル
トモコレヲ返スニハ樹ヲ植エテ 返スヘキ
等ノコトナルトモハ先ツ主タル契約ノ解除

ヲ取消シソノ後ニ樹ヲ植ユルコトヲモ取
消スヘキナリ

第四百八十三條ヨリ第四百九十條ニテハコケ
トレヒルノ期限ノコトヲ云ヒ第四百九十一
條ヨリ第四百九十六條ニテハ「レケト」ニ
ヒルノ式ノコトヲ云ヒ第四百九十七條ヨリ
第四百九十四條ニテハ「レケト」ニ
ノ管轄ノコトヲ云フモノナリ

第四百八十三條一千八百六十二年五月三日如
左改ム敬慎ノ願書ハ丁年者ニ付テハ其本人
司法省

又ハ其住所ニ裁判言渡書ノ送達ヲ得タル
日ヨリニケ月内ニ相手方ニ對シテ裁判一所ニ
出席ヲ要ムル呼出狀ト共ニ之ヲ其相手方
ニ送達ス可シ

敬慎ノ願ヲ為ス期限ハ旧法ハ三ケ月ナ
リ
千八百六十二年五月ニ於テ各種ノ期限
ヲ縮メタリ

此條ニハ期限ノコトヲ云ヒ且ツ少シク裁
云ヒタリ

此後ニソノ式ハ十分ニ説キタルユハ此処
ロニハ説カス

併シコヲ送達スルハ誰レヤリセトヤレハ
使吏之ヲ為スヤリ

ソノ敬慎ノ願書ヲ寫シ此譯ヲ以テ出席ス
ヘシト書クヤリ

此所ニハニケ月ノイノミヲ記シタルソノ
呼出状ヲ送ルハ即チ九月八日ヤリ

前ニ説キタル所ロニ通常ノ呼出状ト同
シク八日トヤリ第千三十三條ニ一般ノ呼

司法省

出状ハ八日ヤリト記シタルユハ此所ロニ記
セストモ可ヤリ

此條ニハ丁年ノイヲ書クチヤリ 幼年
ノイハ次條ニヤリ

裁判言渡ノ日ヨリ起算スルニヤラス裁
判言渡ノ送達ヲ得テ十一ケ條ノイヤリ
又キセヤ見ルヤリアレハロケートレヒル
ヲ為スヤリ

第四百八十四條 千八百六十二年五月十日如
左改ム 幼者ニ付テハ其丁年ニ至リシ後

其本人又ハ其住所ニ裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ其二月ノ期限ヲ數フ可シ

之ハ幼年ノトヲ云フ

幼年ニ付テハ少シク便利ヨロシ

ソノ丁年ニ至ルマテハ一切算セサルナリ

控訴ノトキニハ何人ヲ論セス幼年ナリトモニケ月ヲ過クレバ為スコトヲ得サルナリ此レケートレヒルハ幼年ノモノ、

司法省

丁年トナルマテヲ算セサルナリ

何トナレハソノ後見人ハ善ク拒カサリレマ又ハ法ニ適セサリレマノ遺憾アリ仍テ此ノ如クニ定ムナリ

ロケートレヒルハ再ヒ為スコトヲ得ス殊ニ後見人ハ十分ニ拒カサルノ遺憾アルナリ

問 控訴ノトキハ何ノ為メニ幼者ノ區別ヲ為サ、ルヤ

答 通常ノトニ付テハ丁年ニ至ルマテ

待ツニ及ハスロケートレヒルハ非常ノ
イナリ

タトヘハ甲ニテ死シタリソノ子ハ二年ナ
リソノ子ノ丁年ニ至ルヲ待ツテ訴訟ヲ為
ストキハ甚メ待テ遠キナリ

非常ノ道ハ多クアルモノニアラス 仍テ此
ノ如ク為シタリ

幼年ノモノニテ訴訟ニ負ケタルトキ必ラ
ス云ハン我カ後見人ハ拒キ方ヨロエカ
ラス我カ丁年ニ至リレ後ニ「レケートレヒル」

司法省

ヲ為スヘイト云フ弊アルヘレ仍テソノ
裁判ハ中止セスレテ執行スルナリト
ヒソノ丁年ニ至リレ後ニ取直ストモ先ツ
執行スルナリ之レ控訴ト同レカラサル
ナリ

上告モ「レケートレヒル」モ同レク執行ヲ中止マ
サルナリ 仍テソノ弊害ナレ

第四百八十五條ト第四百八十六條ハ多言ヲ貴
マサス日本ニテハ入用ナレ

第四百八十七條 裁判言渡ヲ受ケタル者

其取消ヲ願フ可キトニ付キ前數條ニ定
メル期限内ニ死去シタル時ハ其相續人
其取消ヲ願フ可キ期限ヲ第四百四十七條
ニ記シタル期限ヨリ數フ可シ但シ其方
法モ又同上ニ記シタル所ニ循フ可シ
一方ノ負ケタルモノノ裁判言渡ノ後一ヶ月
ヲ過キテ死シタリソノトキハソノ言渡
書ヲ相續人ニ再ニ送達セサルハ期限
ヲ起算セサルナリ
既ニ控訴裁判所ノコトヲ說キタルトキニ尽

司法省

クセリ

第四百八十八條 證書ノ贋造ナルト又ハ
新タニ證書ヲ見出シタルト又ハ相手方
ノ詐偽ニ因リ一方ノ者敬慎ノ願書ヲ出ス
時ハ相手方ニテ證書ノ贋造又ハ詐偽ヲ自
認シタル日又ハ新タニ證書ヲ見出シタル
日ヨリニヶ月ノ期限ヲ數フ可シ但シ證書
ヲ見出シタル場合ニ於テハ之ヲ見出シタル
日ヲ證明ス可キ證書アルトテ必要ト

ス

之ハ肝要ナルコナリ

之モニケ月ノ期限ヲ云フモノナレドソノ起
算ノ方法ハ違フナリ

法律ニ於テ三ツノ場合アリト見做スナ
リ

第一ニ詐偽

第二ニ贋造

第三ニ隱匿ニタル証書ヲ見出シタルト

キ

此三ツノ場合ニ於テハ見出シタル日ヨリ起

司法省

算ス

未タ見出サ、ル間ハ詐偽贋造隱匿ナリ

マハ知ルハカラス

ソノ詐偽等ヲ見出シタルトキハ直チニ

裁判所へ書面ヲ以テ届ケ出テサルハ

カラス否ラサレハ之ヲ見出シタリトモ

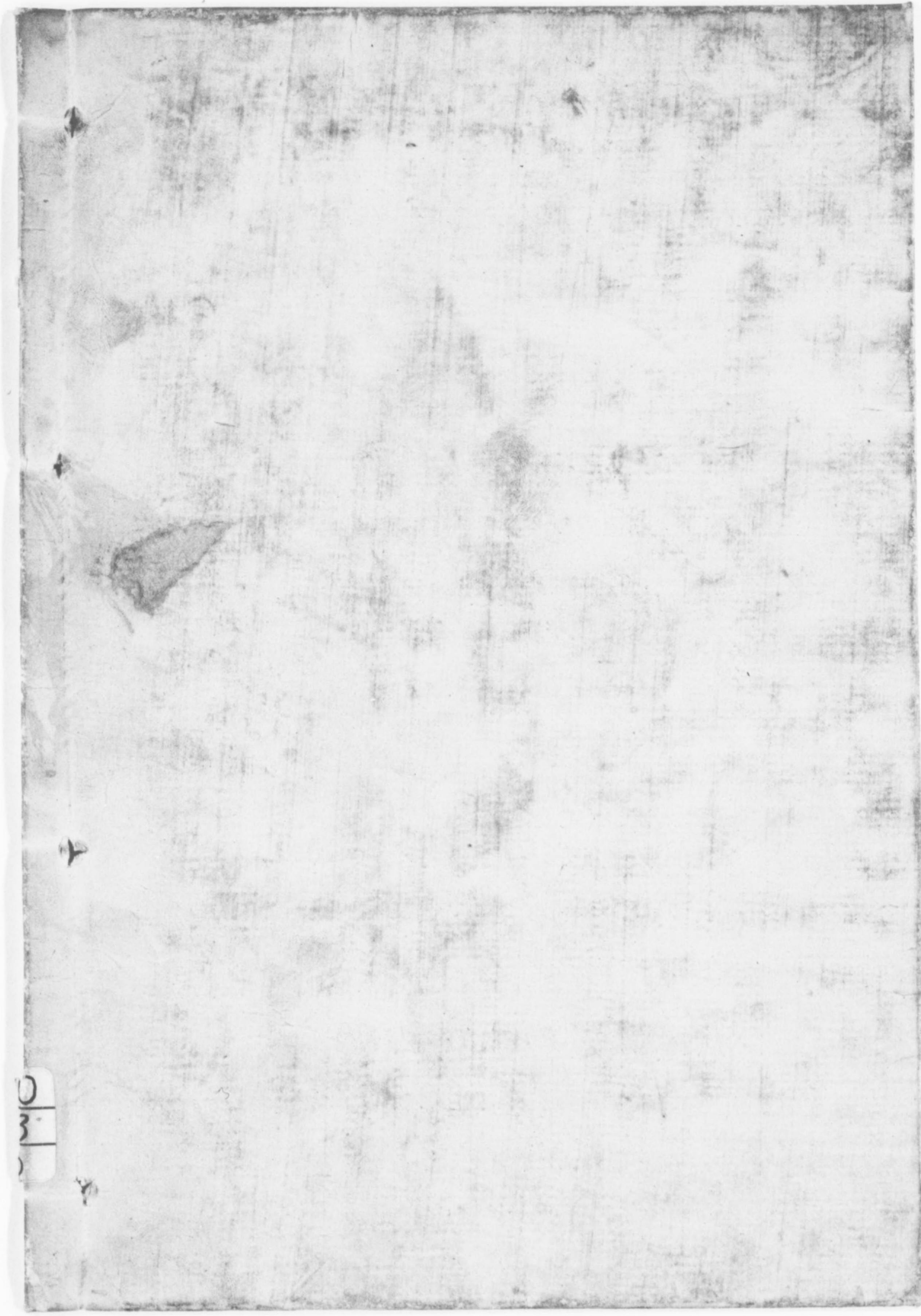
黙シテ居ルヘキナリ

第四百八十九條ニ箇ノ裁判言渡ノ互ニ

齟齬シタル時ハ後ノ言渡書ノ送達ヲ得

タル日ヨリニケ月ノ期限ヲ數フ可シ

之モ同シク期限ヲ言フモノナリ
前條ノ裁判ノ言渡ヲ送達シタルノミニテ
ハ齟齬ハ生セサルナリ後ノ言渡書ヲ送
達スルトモハソノ齟齬セシテ分明ナリ
之ニテレケトシヒルノ期限ノイハ済ミナリ
次會ニハ式ノイラテカントカ



0
3
0